

OFCFC NEWS

2002 年 4 月 15 日号

Vol. 10

大川こども & 内科クリニック

春の診療体制 ～春は院長と話そう～

2002 年 4 月で OFCFC は 2 周年を迎えました。患者さん登録は 6,100 名を越え、昨年の受診者数は約 28,000 名となりました。ご利用いただき誠にありがとうございます。2 月には受診者数の増加に伴い、一部の方に十分な病状説明ができずに御迷惑をおかけ致しました。患者さんが納得する医療をすることと、待ち時間の短縮は相反することですが両立するために全力を尽くすつもりです。

疑問の点は遠慮無く、医師、看護婦、事務スタッフにお尋ね下さい。また春から夏にかけては比較的時間の取れる時期です。納得いくまでご質問下さい。

水曜日の小児神経担当の先生が変わります。新しい先生は古島わかな先生です。ひきつけや子供の発達について相談したい方は是非受診してください。7 月までの休日診療の予定が決まりました。ご利用下さい。

4 月	5 月	6 月	7 月
14 日、28 日	3 日、6 日、19 日	9 日、30 日	7 日、20 日

いずれも午前 9 時より 12 時までです。

麻疹ワクチンの 1 歳未満児接種公的負担の署名運動

1 月に日本小児科医会による 1 歳児への麻疹ワクチン接種の公的負担への署名運動が行なわれました。2 週間弱の短期間ながら約 100 名の署名を頂きありがとうございます。署名は医会を通じて

厚生労働省に手渡されました。早期に欧米並みの 1 歳未満での初回接種とその後の 2 回接種が認められたいものです。もう麻疹輸出国とは云わせません。

麻疹患者接触乳児への予防的グロブリン注射

2 月 22 日に保健所より連絡が入り BCG 接種会場で麻疹患者さんと乳児の接触があり、予防的に γ グロブリンの筋肉注射を依頼されました。OFCFC では γ グロブリンが血液由来の製剤であること、この製剤の筋注による効果と副反応についてパンフレットを作りインフォームドコンセントをとった上で、20 名の方に投与しました。投与を見合わせた方は

3 名いらっしゃいましたが、受診された 23 名に現在まで麻疹の発症、副反応の出現ともにみられておりません。筋注用 γ グロブリンは麻疹の発症予防、症状軽減に関して確立された治療方法ですが、大きな会場での接触にどれぐらい必要であったかの判断は難しいところです。

OCFC INFORMATION

OCFC 院長6月16日にアトピー性疾患について講演

院長は6月16日に武蔵小山の小山台会館にて、「リンパ球の反乱—アトピー性疾患、その解決策を探る」と題して講演を致します。ご興味のある方は是非ご参加ください(入場無料)。リンパ球の成熟過程を教育問題になぞらえて分かり易く説明する予定です。切れやすい若者を生み出す環境とアトピー性疾患—リンパ球の暴走—をとりまく状況には相関があるようです。果たして解決策は…。講演をお楽しみに。

ウイルソン病のスクリーニングが試験的に開始

ウイルソン病は先天性の異常により体から銅が排泄されずに、肝臓等に蓄積される病気です。治療が行なわなければ肝障害や発育不全となります。OCFCでは全国に先だてこの疾患のスクリーニング検査に協力します。対象者は3歳児以上で尿で調べます。保護者の方から直接東京都予防医学協会に郵送していただきます。詳しいことはスタッフにお尋ね下さい。

感染症 だより

インフルエンザ報告

予防接種について:今シーズンの予防接種は10月10日より開始致しました。3月2日に接種は終了し、延べ1,864名に施行致しました。当初は接種部位の腫脹・発赤を訴える方がいらっしゃいましたが、副反応の発生は34名(1.8%)、局所の腫脹は28名(1.5%)、他は38度以上の発熱6名(0.3%)、肘関節を越える腫脹1名、眩暈1名でした。安全に施行できたと考えております。

インフルエンザの発症:今シーズンのインフルエンザはOCFCでは1月9日に初めて診断して以来、1月69名、2月97名、3月42名の合計208名です。発症者のうちインフルエンザ接種者は37名(17.8%)、小児で1回接種のみの方は6名発症しております。予防接種者での発症は、発熱や倦怠感が軽度な人が多く、たとえ発症しても軽症で推移しているようです。タイプはA型がほとんどでした。インフルエンザの検査は560名に施行しましたが、多くの症例で臨床症状での診断と一致しております。症状は39度以上の発熱と食欲不振が多く、ついで咳嗽、鼻汁があります。頭痛・関節痛・筋肉痛は併せて半数程度、さらに腹痛・下痢・結膜炎が合併します。OCFCで診断・治療を受けた方で重症化あるいは入院をされた方はいらっしゃいませんでした。

治療はシンメトリルが主流で、3月より使用した検査試薬はインフルエンザA・Bの区別ができず、タミフルを使用しました。効果は劇的で2日以内での解熱は90%以上となっております。抗インフルエンザ薬が効果的でも、インフルエンザにはワクチン接種のほうが有効です。本年度かかった方も秋には予防接種を受けましょう。

感染性胃腸炎大流行

今シーズンも感染性胃腸炎(感冒性嘔吐下痢症)が猛威をふるいました。12月から増加し始め1月、2月、3月と毎月100名を越えております。今年の特徴は成人にも発症者が多く、また下痢・嘔吐がだらだらと1週間以上も続く方もいらっしゃいます。嘔吐がいったん回復した後も1~2日後にぶり返す方もいらっしゃいました。原因はロタウイルスや小型球形ウイルス群であり、1ヶ月間隔で同じ症状を発症する方もいます。3回発症した方もいました。

発熱は半数から1/3にあり、咽頭発赤もあることから抗生剤を投与しがちですが、OCFCでは一部の例外的症例(細菌感染が否定できない方5名ぐらい)を除いて抗生剤を使用しないで治療致しました。

その他の 感染症

12月以降も幼稚園・保育園単位でウイルス感染症が流行致しました。水痘・おたふくかぜ等です。風疹も1名発症しています。そのほかアデノウイルスによる、流行性角結膜炎、溶連菌感染症も小流行致しました。マイコプラズマ肺炎は発症は減少してきています。麻疹は成人の方が発症しました。

病診連携

関連病院施設にお願いした患者さんは61名で検査10名、外来36名、入院15名でした。

検査紹介では三宿病院にメニエール病2名、気管支拡張症1名、医科歯科大学小児外科に神経芽細胞腫のエコー検査、臍ヘルニア・小児科には睡眠時無呼吸で2名、太田総合病院に脳波検査、偏頭痛の頭部MRI検査を依頼しました。東邦大学内科には胸部レントゲン異常陰影、放射線科には偏頭痛の頭部CT検査を依頼しています。女性の胸部の硬結に関しては昭和大学病院外科に紹介しました。また眼疾患、耳鼻科領域、皮膚疾患はそれぞれ下丸子眼科、池上耳鼻科、藤岡皮膚科に紹介致しました。

入院患者さん紹介は15名で嘔吐・下痢症による脱水、気管支炎・肺炎が大多数でした。東京医科歯科大学には内科に初発のSLE（膠原病）、東邦大学小児科、日赤医療センター小児科にそれぞれ川崎病の患者さんを紹介致しました。気管支炎・反復性中耳炎で大森日赤病院に紹介した方はOCFCでの検査でIgGサブクラス欠損症であることが分かりました。その他都立荏原病院、社保蒲田総合病院にも紹介しています。皆さん無事回復され退院されています。

点滴コーナー

点滴治療された方は12月36名、1月31名、2月41名、3月28名の合計136名でした。ほとんどの方が肺炎あるいは嘔吐下痢症による脱水でした。今期の嘔吐下痢症は罹病期間が5～7日と長引く人が少なく、2～3日間点滴が必要な方もいらっしゃいました。難病でステロイド療法を受けられている患者さんでは嘔吐のため服薬できず、前ショック状態で来院された方もいらっしゃいます。ステロイドを含む点滴で回復されています。

院長のサイエンティフィックアクティビティ(Scientific activities)

12月に小児癌学会出席、3月の小児血小板減少症治療委員会出席以外は出張の少ない季節でした。4月には名古屋で開かれる日本小児科学会に出席予定です。代診の先生に変更となります。医師向けに易感染性(熱が出やすい子供をどう診察し、検査をおこなうか。)について解説しました。出版されましたらご紹介申し上げます。3月2日には池上第2保育園で子供の発熱について講演致しました。6月にはアトピー性疾患についての最近の考え方を講演する予定です。(前述)

診療時間

栄養相談の予約:代表電話で直接予約下さい。
大田区の各種健康診査は火・木・金の午後2:00～4:00にお越しください。検査希望の方は代表電話にて直接予約してください。

曜日	8:30～12:00	14:00～16:00	16:00～18:00
月	一般(小・内)	一般(小・内)	一般(小・内)
火	一般(小・内)	乳健・予接・ア・慢	一般(小・内)
水	代診(小児科)	一般(小・内)	一般(小・内)
木	一般(小・内)	乳健・予接・ア・慢	一般(小・内)
金	一般(小・内)	乳健・予接・ア・慢	一般(小・内)
土	一般(小・内)	13:00～14:00 乳健・予接、14:00～15:00 一般(小・内) 栄養相談 13:00～15:00 30分ずつ(乳幼児、生活習慣病)	

乳健：乳児健診、予接：予防接種、ア：アレルギー疾患 慢：慢性疾患

院内機器

新しい検査機器:心電図モニター(点滴施行患者さんモニター用)、オゾン空気清浄・防臭装置(2台)
院内設備:隔離感染症室、電話自動予約機(24時間対応)、空気清浄装置(臓器移植にも対応できる)
検査機器:レントゲン装置、自動解析装置付心電計、自動血球分析器、CRP/ASO測定機、自動検尿器、電子スパイロメーター、血糖測定器、経皮酸素分圧モニター、24時間酸素分圧モニター、聴力検査機器

電話予約について

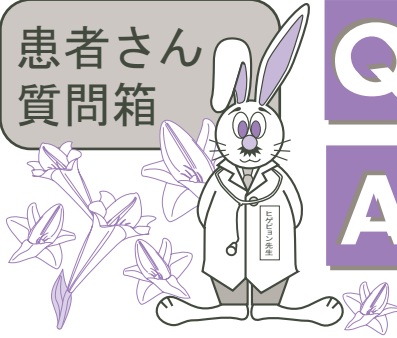
当クリニック(OCFC)では患者さんの待ち時間短縮のため予約制を採用しています。できるだけ電話にて予約を取られるようお願いいたします。空き状況をお聞きの際は、かけなおして予約をお取りください。予約希望時間が詰まっている時は希望時間に近い時間帯をご案内いたします。希望時間が取れない方は直接御来院頂ければ順番にて診療いたします。慢性疾患などで十分な説明をご希望の方は電話で直接お尋ねください。

■ サービスコード

項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード
小児科一般	11#	乳幼児健診	16#	2種混合	22#	おたふくかぜ	27#
内科一般	12#	健康診断	17#	麻疹	23#	日本脳炎	28#
アレルギー/慢性疾患	13#	確認	20#	風疹	24#	その他	29#
隔離感染症	14#	取消	30#				
予防接種	15#	3種混合	21#	水痘	26#		

予約の空き情報は40#でご案内いたします。予防接種(15#)を押した方はさらにサービスコードで希望される項目を指定して下さい。サービスコードの確認を、よろしければ0# 誤ってあれば1#で行って下さい。

患者さん 質問箱



Q

私の子供は1歳ですが月に2回以上も熱をだしたり、咳が続いたりしています。先天的に感染に弱いのかと心配しています。どうしたら良いでしょうか。

(27歳 周りからなんだかんだといわれて少しノイローゼ気味の主婦)

A

1歳ぐらいのお子さんがしょっちゅう熱を出したり、咳やゼイゼイしたりしているとお父さんやおばあちゃん、お隣の奥さん・幼稚園・保育園の先生からいろいろ云われて大変でしょう。お子さんの発熱はそんなに悪いことなのでしょうか。赤ちゃんのゼイゼイはみんな肺炎になってしまうのでしょうか。ここはじっくり考えてみましょう。

乳児は生理的に空気が通る鼻腔・上気道が狭く、また柔軟性に富んでおりゼイゼイ云いがちです。この上気道から発生する音を肺からの音と勘違いして、肺炎になったと考える方も多いようです。この場合熱も無く、食欲があれば(体重増加が認められれば)大丈夫です。ただ2歳以下では呼吸器の免疫が充分発達していないので肺炎になりやすいことも事実です。実際冬にはRSウイルス等による細気管支炎にかかる呼吸ができにくくなり入院となることが少なくありません。でもそういったお子さんでも3歳過ぎれば自然に抵抗力ができて、肺炎にまでいかなくなります。

さて熱の原因となる感染症はいくつぐらいあるでしょう。はしかや水痘それに突発性発疹のウイルスは2種類あります。夏の咽頭結膜炎になるアデノウイルスは8種類、ヘルパンギーナや手足口病の原因ウイルスであるコクサッキーウイルスやエコーウイルスはそれぞれ12種、7種さらに7種類以上のエンテロウイルスもあります。冬の下痢の原因になるロタウイルスは4種類以上、今年流行の小型球形ウイルスは充分解析されていませんが10種類以上となり、インフルエンザウイルスは変身を繰り返します。そのほかのウイルスも加えると100種類を越えます。さらに細菌感染症では溶連菌やインフルエンザかん菌、肺炎球菌などがあります。従って4歳までにウイルス性疾患に罹るとしたら年間25種のウイルスと戦い、月4回の発熱となります。さらに細菌による発熱があります。言い換えますと普通の健康な幼児でも月4回の発熱は大きな問題ではありません。それどころか感染を繰り返すごとに免疫力が上昇しているといえます。子供の頃一生懸命に病気になり、免疫をつけていけば丈夫な大人になります。なにか感染症に罹ることと勉強することとは似ていると思いませんか。まさに子供は発熱して成長しているのです。子供が感染症に罹ったら心配でしょうが、小児科医と連絡をとりながら見守り応援してあげてください。自分の力で治ることも必要です。小児科医はそれをお手伝いします。そして必要なときは必要なだけ医療を提供します。子供の頃の発熱は学校での模擬試験です。(OCFC 院長)

一 口 メ モ

インフォームドコンセント: 医療における説明と同意

医師には診察した際の病状と治療について説明し、患者さんから同意を得る義務があり、患者さんは説明を受ける権利と治療の選択についての決定権があります。この関係を確立することをインフォームドコンセントといいます。

医療法人社団 オー・シー・エフ・シー (OCFC) 会

OCFC

Okawa Children & Family Clinic

大川こども&内科クリニック

小児科・内科・アレルギー科

東京都大田区多摩川1-6-16

院長 大川 洋二

診療時間: 月～金 午前 8:30～12:00 午後 2:00～6:00

土 午前 8:30～12:00 午後 1:00～3:00

(日曜・祝日休診) 駐車場五台あり

予約
専用

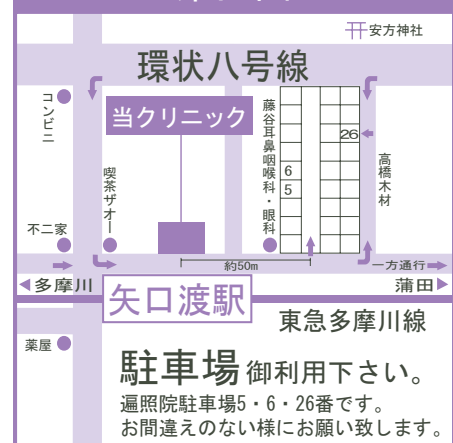
03-3758-0099

代表
番号

03-3758-0920

E-mail: ocfc@jeans.ocn.ne.jp

案内図



東急多摩川線 矢口渡駅前

駐車場 御利用下さい。

通照院駐車場5・6・26番です。
お間違えのない様お願い致します。